

結果の要約

1 職業

栃木県の15歳以上就業者数(1,017,139人)を職業大分類別にみると、「生産工程・労務作業員」が353,827人(15歳以上就業者数の34.8%)と最も多く、次いで「事務従事者」が171,481人(同16.9%)、「販売従事者」が124,984人(同12.3%)などとなっている。平成12年と比べると、「保安職業従事者」が1,100人(9.5%)増、「サービス職業従事者」が5,751人(6.4%)増などとなっている。一方、「管理的職業従事者」が4,209人(17.4%)減、「農林漁業作業員」が6,585人(8.8%)減などとなっている。

職業4部門別割合は、「生産・運輸関係職業」が38.3%と最も高く、次いで「事務・技術・管理関係職業」が31.0%、「販売・サービス関係職業」が23.0%、「農林漁業関係職業」が6.7%となっている。平成12年と比べると、「販売・サービス関係職業」、「事務・技術・管理関係職業」がそれぞれ0.7ポイント、0.3ポイント上昇しているのに対し、「生産・運輸関係職業」、「農林漁業関係職業」がそれぞれ0.8ポイント、0.5ポイント低下している。

「事務・技術・管理関係職業」	= 「専門的・技術的職業従事者」 + 「管理的職業従事者」 + 「事務従事者」
「生産・運輸関係職業」	= 「運輸・通信従事者」 + 「生産工程・労務作業員」
「販売・サービス関係職業」	= 「販売従事者」 + 「サービス職業従事者」 + 「保安職業従事者」
「農林漁業関係職業」	= 「農林漁業作業員」

2 就業時間

15歳以上就業者の平均週間就業時間は41.5時間で、職業大分類別にみると、「運輸・通信従事者」が48.9時間と最も長く、次いで「保安職業従事者」が46.0時間、「管理的職業従事者」が45.0時間などとなっている。平成12年と比べると、すべての職業大分類で減少となっている。特に、「サービス職業従事者」が2.0時間減、「販売従事者」が1.7時間減となっている。

3 夫婦の労働力状態、職業

夫婦の労働力状態をみると、夫と妻ともに就業者である夫婦が244,315組(夫婦数508,039組の48.1%)と最も多く、次いで夫が就業者で妻が就業者以外である夫婦が149,580組(同29.4%)などとなっている。また、夫と妻ともに就業者である夫婦の職業をみると、夫と妻ともに「生産工程・労務作業員」である夫婦が36,628組(夫と妻ともに就業者である夫婦数の15.0%)と最も多く、次いで夫が「生産工程・労務作業員」、妻が「事務従事者」である夫婦が23,078組(同9.4%)などとなっている。

4 従業・通学時の世帯の状況

従業・通学時の世帯の状況をみると、「通勤・通学者のみの世帯」は204,733世帯(住宅に住む一般世帯691,894世帯の29.6%)となっている。一方、通勤・通学者以外の世帯員がいる世帯は487,161世帯(同70.4%)で、このうち通勤・通学者以外の世帯員が65歳以上の「高齢者のみ」の世帯が151,101世帯(同21.8%)、「女性のみ」の世帯が91,602世帯(同13.2%)、「幼児と女性のみ」の世帯が40,301世帯(同5.8%)となっている。

図1 栃木県の職業（大分類）別就業者数（平成12年，17年）

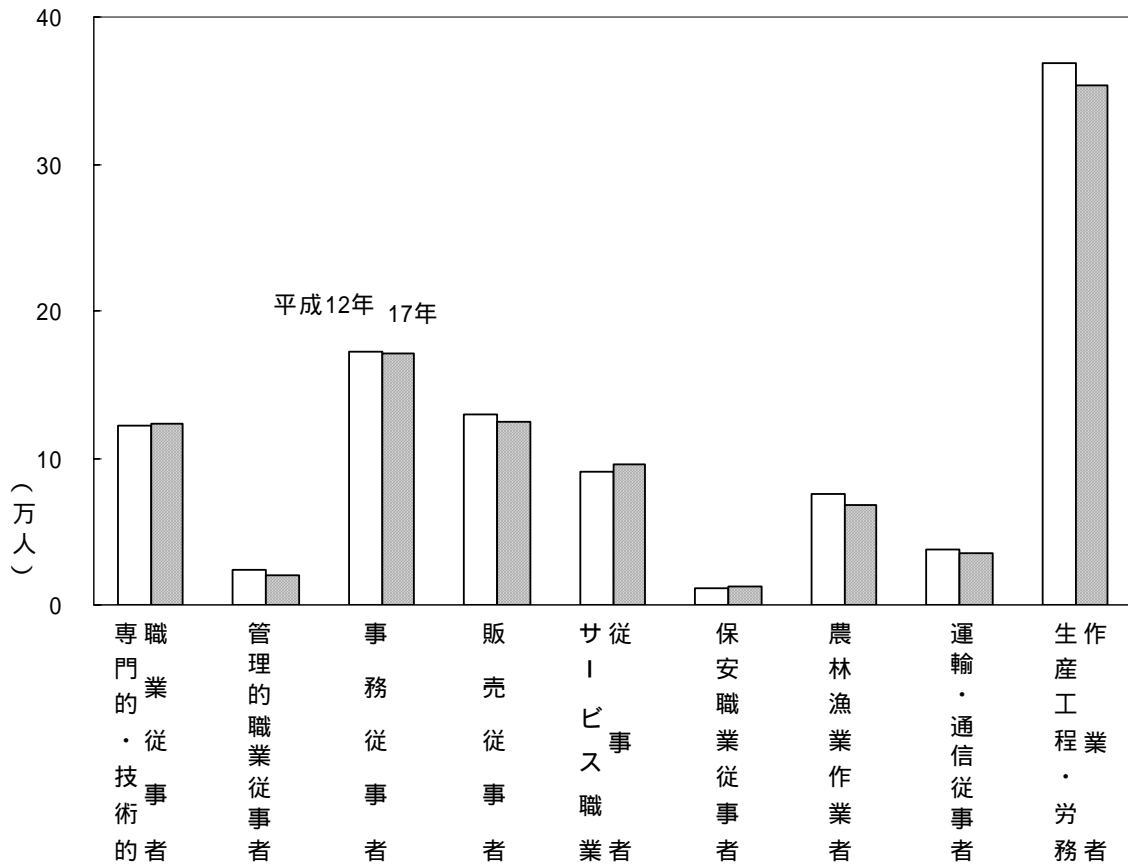


図2 栃木県の職業（4部門）別割合の推移（昭和55年～平成17年）

